

H25 岡山県学力調査 中学校1年数学

通し番号	問題番号			解答形式			基礎問題	活用問題	評価の観点				正答	出題のねらい	問題の内容	領域	学習指導要領	備考 ◎類似 ★同一	
	大問	中間	小問	選択	短答	記述			関	思	技	知							
1		(1)			○		○					○	6.09	小数の減法の計算ができる。	小数の計算	数と計算	小4年A(5)イ	◎H24全国A_1(3) 54.1%	
2	1	(2)			○		○					○	350	計算の順序についてのきまりを理解し、計算ができる。	四則混合の計算	数量関係	小4年D(2)ア	★H22全国A_1(6) 62.8%	
3		(3)			○		○					○	16.8	小数の除法(整数÷小数第1位)の計算ができる。	小数の計算	数と計算	小5年A(3)イ	◎H23県_1(2) 60.5%	
4		(1)		④			○						○	2	分数の意味を理解している。	分数の意味	数と計算	小5年A(4)ア、イ	◎H23県_2(3) 36.4%
5	2	(2)				○		○				○	(例)コンパスを用いて、点イを中心として、半径アイと同じ長さの半径の円をかき、もとの円と交わる点を点ウとすればよい。	円の性質を利用して、正三角形の頂点を作図する方法を説明することができる。	正三角形・円	図形	小3年C(1)ア、ウ		
6		(3)		⑥			○						○	点E	線対称の意味を理解している。	対称な図形	図形	小6年C(1)イ	
7		(4)			○		○						○	4	反比例の表を読み取り、正しいyの値を求めることができる。	反比例	数量関係	小6年D(2)ウ	◎H24県_2(3) 41.9%
8	3	(1)			○		○						○	辺キカ	立方体の辺や面の位置関係を理解している。	立方体	図形	小4年C(2)ア	
9		(2)		⑤			○						○	1, 2, 4, 5(完答・順不同)	立方体の面の垂直の関係を理解している。	立方体	図形	小4年C(2)イ	
10	4					○		○				○	(答え)正しいに○をする。 (理由・例)三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができる。三角形ABCと三角形ABDの底辺はともにABで長さが等しい。また、頂点Dを1とすると、三角形ABDの高さは8cmとなり、三角形ABCの高さBCと等しい。底辺と高さがそれぞれ等しいので、2つの三角形の面積は等しい。	方眼紙上にかかれた三角形と面積の等しい三角形のかき方について、説明することができる。	三角形の面積	量と測定	小5年B(1)ア	◎H24県_4 18.7%	
11		(1)			○		○						○	36(km)	平均を求めることができる。	平均	量と測定	小5年B(3)ア	◎H24全国A_4 84.5%
12	5	(2)			○		○						○	500(L)	異種の2つの量の割合でとらえられる数量を、単位量当たりの考えを用いて比べることができる。	単位量当たりの大きさ	量と測定	小5年B(4)ア	
13		(3)	①	④			○						○	4	場面と図とを関連付けて、2つの数量の関係を表している図を選ぶことができる。	小数の計算	数と計算	小5年A(3)ア	◎H24全国A_3(1) 32.4%
14		(3)	②				○						○	60÷0.4	1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している。	小数の計算	数と計算	小5年A(3)ア	◎H24全国A_3(2) 37.0%
15	6	(1)	①				○						○	(ア)三角形ABC, (イ)三角形ACD(完答)	台形の面積を求める式や図、説明から、台形を対角線で切って、三角形二つに分割して台形の面積を求めていることがわかる。	台形の面積	量と測定	小5年B(1)ア	
16		(1)	②				○		○				○	(例)平行四辺形ABEFは、底辺が(10+4)cm、高さが6cmなので、面積は(10+4)×6=84 84cm ² になります。最後に、台形ABCDの面積は、平行四辺形ABEFの面積の半分になるので、84÷2=42	台形二つを組み合わせて平行四辺形にすることを利用して、台形の面積が求められることを図と式を基に説明することができる。	台形の面積	量と測定	小5年B(1)ア	
17		(2)					○		○				○	(略)台形に、式に合った線をかき入れる	台形の面積の求める式から、台形を平行四辺形と三角形に分割して、面積を求めていることを理解し、図で表すことができる。	台形の面積	量と測定	小5年B(1)ア	
18	7	(1)		④			○						○	2, 4(完答・順不同)	複数のグラフを正しく読み取ることができる。	資料の分類整理	数量関係	小3年D(3)ア 小4年D(4)イ	◎H23県_4(1) 82.5%
19		(2)	①				○		○				○	(例)自給率は消費量をもとにしたときの生産量の割合を表している。1980年の自給率は80%で100%より小さいので、生産量は消費量より少なくなる。	百分率で表された割合を理解し、基準量(消費量)と比較量(生産量)の大小関係を説明することができる。	百分率	数量関係	小5年D(3)	
20		(2)	②				○		○				○	320(万t)	百分率で表された割合を用いた計算で答えを求めることができる。	百分率	数量関係	小5年D(3)	
21		(3)					○		○				○	(答え)正しくないに○をする。 (理由・例)自給率は消費量をもとにしたときの生産量の割合を表している。したがって、1975年と1985年では、自給率が同じでも消費量が異なっているため、生産量は同じにならない。	割合(自給率)が同じでも、基準量(消費量)が異なれば、比較量(生産量)も異なることを説明することができる。	百分率	数量関係	小5年D(3)	◎H23県_4(2) 10.9%

5 11 5 15 6 6 8 7
71.4% 28.6% (関)算数への関心・意欲・態度
(思)数学的な考え方
(技)数量や図形についての技能
(知)数量や図形についての知識・理解

A 数と計算
B 量と測定
C 図形
D 数量関係